

大阪千代田短期大学 講師 土居 隆

- ・現在、学習指導要領改訂に向け、中教審教育課程特別部会で議論が進められている
- ・話題としては「学習評価のあり方」、「幼児教育と小学校教育の接続」、「障害のある子どもに対する教育課程の充実」など
- ・7/4 の委員会では、野口委員から「ソーシャル・マジョリティ中心社会の課題」「合理的配慮と基礎的環境整備」に基づく提案(※右資料)
- ・「障害のある子どもに対する教育課程の充実」については、通級における教科指導(今までは通級において教科指導はなされなかった)が提言されており、LD への教育体制の充実が期待される

※LD については、以下のような見方の違いがある

LD(Learning Disorder) 学習障害

医療としての定義

LD(Learning Disabilities) 学び方の違い

LD 学会などの見方

LD(Learning Diversity) 多様な学び

近年の「多様性」の観点(Neurodiversity=神経多様性)

からの見方

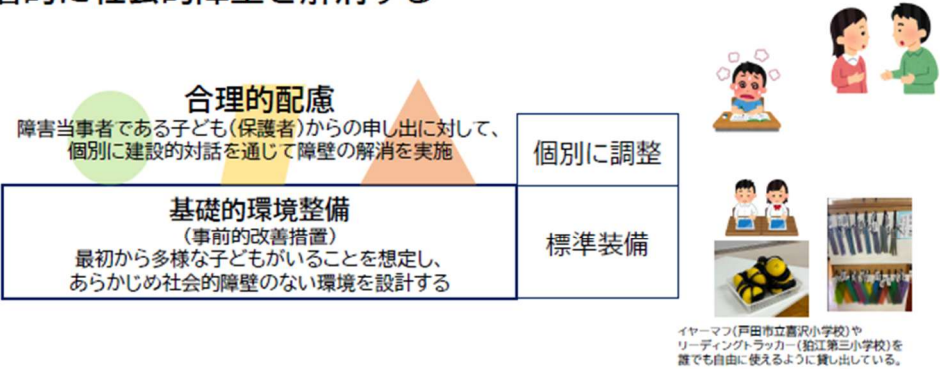
障害の個人モデルと社会モデル

	個人モデル	社会モデル
困難さの原因	個人の機能的な障害や特性。	マジョリティ中心社会が困難さの原因。 社会の側が様々な機能的な障害・特性がある人を前提につくられていないために、社会的障壁(バリア)が生じる。
アプローチ方法	個人が治療をしたり、訓練をしたりして、社会に合わせる。	マジョリティ中心社会による社会的障壁を解消することにより、環境や社会を多様な人がいることを前提のものに変える。

©Akina Noguchi

4

複層的に社会的障壁を解消する



基礎的環境整備の充実により個別調整の必要性は減る
(=教職員・保護者・子どもの負担減)

Akina Noguchi ©

5